



平成31年2月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成31年1月10日

上場会社名 株式会社ジェイグループホールディングス

上場取引所 東

コード番号 3063 URL <http://www.jgroup.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 新田 二郎

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 赤工 朝飛

TEL 052-243-0026

四半期報告書提出予定日 平成31年1月11日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成31年2月期第3四半期の連結業績(平成30年3月1日～平成30年11月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年2月期第3四半期	11,023	3.9	223		161		191	
30年2月期第3四半期	10,614	2.3	174		148		207	

(注) 包括利益 31年2月期第3四半期 168百万円 (%) 30年2月期第3四半期 200百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年2月期第3四半期	22.75	
30年2月期第3四半期	25.39	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
31年2月期第3四半期	11,251	1,914	16.1
30年2月期	9,035	1,836	19.6

(参考) 自己資本 31年2月期第3四半期 1,809百万円 30年2月期 1,769百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年2月期		1.50		1.50	3.00
31年2月期		1.50			
31年2月期(予想)				1.50	3.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成31年2月期の連結業績予想(平成30年3月1日～平成31年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	15,300	2.3	150	37.4	160	3.8	50		5.90

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 有
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	31年2月期3Q	8,812,200 株	30年2月期	8,496,400 株
期末自己株式数	31年2月期3Q	200,105 株	30年2月期	200,105 株
期中平均株式数(四半期累計)	31年2月期3Q	8,429,620 株	30年2月期3Q	8,163,274 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件等については、添付資料3ページ「連結業績等の将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計上の見積りの変更)	8
(セグメント情報)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業業績や雇用環境の改善が進んでおり、景気は緩やかな回復基調が続いておりますが、海外の政治、経済動向は先行き不透明な状況で推移しております。

外食業界におきましては、原材料価格の上昇や人材不足による人件費関連コストの上昇など、厳しい経営環境が続いております。

このような環境のもと、当社グループでは、新規出店及び直営既存店のリニューアルに注力するとともに、前連結会計年度に連結子会社化した株式会社かわ屋インターナショナルにおいて「博多かわ屋」のフランチャイズ展開に取り組みました。直営店の出退店におきましては、7店舗を新規出店し、14店舗をリニューアルするとともに、5店舗を閉店いたしました。これらにより、平成30年11月末日現在の業態数及び店舗数は、69業態151店舗(国内148店舗、海外3店舗)となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は11,023百万円(前年同期比3.9%増)、営業損失は223百万円(前年同期は営業損失174百万円)、経常損失は161百万円(前年同期は経常損失148百万円)、親会社株主に帰属する四半期純損失は191百万円(前年同期は四半期純損失207百万円)となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

① 飲食事業

原価及び人件費のコストコントロールに注力するとともに、既存店のリニューアルに取り組みました。

新規出店といたしましては、平成30年5月に「山田チカラ NewYork」(米国ニューヨーク州)、8月に「博多かわ屋仙台店」(仙台市青葉区)、10月に「光蔵(ミツクラ)名駅店」(名古屋市中村区)、11月に「博多かわ屋豊橋駅前店」(愛知県豊橋市)、「博多かわ屋錦店」(名古屋市中区)、「光蔵錦店」(名古屋市中区)、「焼肉ゆたか」(愛知県豊橋市)を新規オープンいたしました。リニューアルでは、平成30年3月に「猿Cafe(サルカフェ)錦店」(名古屋市中区)を「博多かわ屋伏見店」に、「THE KRAZY GARLIC(ザ・クレイジーガーリック)」(東京都豊島区)を「博多かわ屋池袋東口店」に、4月には「tantan(タンタン)名駅店」(名古屋市中村区)を「ほろほろ」に、「どなんち静岡呉服町店」(静岡市葵区)を「博多かわ屋静岡呉服町店」に、「串星(クシボシ)」(名古屋市中区)を「博多かわ屋金山店」に、「88huithuit(ユイトユイト)イオンモール岡山店」(岡山県岡山市)を「Mou Mou Cafe(モウモウカフェ)イオンモール岡山店」に、6月には「tantan四日市店」(三重県四日市市)を「博多かわ屋四日市店」、「大漁(タイリョウ)」(米国ハワイ州)を「山田チカラ Honolulu」に、7月には「Cafe Merrow(カフェメロウ)」(名古屋市中区)を「Mou Mou Cafeアスナル金山店」に、「てしごと家豊田店」(愛知県豊田市)を「博多かわ屋豊田店」に、8月には「金山きらり」(名古屋市中村区)を「金山精肉酒場(カナヤマセイニクサカバ)せきや」に、10月には「MARCADO(マルカド)」(川崎市中原区)を「吟醸(ギンジョウ)マグロ武蔵小杉店」、「猿Cafe静岡呉服町店」(静岡市葵区)を「Mou Mou Cafe 静岡店」に、11月には「浜焼商店(ハマヤキショウテン)」(名古屋市中区)を「博多かわ屋大曽根店」に、それぞれリニューアルオープンいたしました。

また、「芋蔵(イモゾウ)芝大門店」(東京都港区)、「PIT TAVERN(ピットタバーン)名駅店」(名古屋市中村区)、「猿Cafe八事店」(名古屋市中区)、「TRENCH食堂(トレンチショクドウ)」(名古屋市中区)、「献(コン)」(名古屋市中区)を閉店いたしました。

その結果、飲食事業における売上高は10,106百万円(前年同期比5.0%増)、営業利益は323百万円(同19.0%増)となりました。

② 不動産事業

テナントビル「ダイヤモンドウェイ」や「G-SEVENS刈谷」、「jG金山」などの賃貸収入が安定的な収益に寄与いたしました。また、平成30年10月に不動産を保有する株式会社ジェイアセットを連結子会社化いたしました。その結果、不動産事業における売上高は、グループ内の賃貸物件の減少により1,506百万円(前年同期比1.0%減)と微減となりましたが、営業利益は128百万円(同1.1%増)となりました。

③ ブライダル事業

既存施設の収益力向上を図るため、名古屋ルーセントタワー別棟のレストランウェディング施設「LA ETERNITA (ラ・エテルニータ)」(名古屋市西区)を改装いたしました。その結果、改装に伴う営業休止期間が一時的に生じたため、ブライダル事業における売上高は494百万円(前年同期比17.3%減)、営業損失は14百万円(前年同期は営業利益28百万円)となりました。

④ その他の事業

販促制作事業及び卸売業等のその他の事業における売上高は638百万円(前年同期比2.2%減)、営業利益は24百万円(同12.3%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は11,251百万円(前連結会計年度末比2,216百万円増加)となり、負債は9,337百万円(同2,138百万円増加)、純資産は1,914百万円(同77百万円増加)となりました。

流動資産につきましては、前連結会計年度末に比べ総額で45百万円増加し1,207百万円となりました。これは、現金及び預金が95百万円減少し、売掛金が86百万円、商品及び製品が44百万円、それぞれ増加したことなどが主な要因であります。

固定資産につきましては、前連結会計年度末に比べ2,175百万円増加し10,022百万円となりました。これは、新規出店及びリニューアルに伴う建物及び構築物の増加及び株式会社ジェイアセットの連結子会社化に伴う土地の増加等により有形固定資産が1,719百万円、同社の株式取得に伴うのれんの計上等により無形固定資産が430百万円、それぞれ増加したことなどが主な要因であります。

繰延資産につきましては、社債発行費の減少を主因に、前連結会計年度末に比べ4百万円減少し21百万円となりました。

流動負債につきましては、前連結会計年度末に比べ3百万円増加し3,339百万円となりました。これは、買掛金が77百万円、未払金が263百万円、それぞれ増加し、短期借入金が241百万円、1年内返済予定の長期借入金が64百万円、1年内償還予定の社債が36百万円、それぞれ減少したことなどが主な要因であります。

固定負債につきましては、前連結会計年度末に比べ2,134百万円増加し5,998百万円となりました。これは、新規出店及びリニューアルに伴う資金調達や株式会社ジェイアセットの連結子会社化に伴い長期借入金が1,795百万円増加したことなどが主な要因であります。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ77百万円増加し1,914百万円となりました。これは主に、新株予約権の権利行使により資本金及び資本剰余金がそれぞれ130百万円増加し、非支配株主持分が26百万円増加、四半期純損失の計上及び中間配当により利益剰余金が216百万円減少したことなどが主な要因であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成31年2月期の連結業績予想につきましては、平成30年4月9日に公表いたしました業績予想から、現時点におきまして変更はありません

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	357,484	262,189
売掛金	326,169	412,946
商品及び製品	1,690	46,013
原材料及び貯蔵品	114,266	123,664
その他	362,333	363,021
流動資産合計	1,161,945	1,207,836
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,506,441	3,581,644
土地	1,596,223	3,256,223
その他(純額)	716,632	700,992
有形固定資産合計	5,819,296	7,538,860
無形固定資産		
のれん	352,679	767,322
その他	20,693	36,296
無形固定資産合計	373,373	803,618
投資その他の資産		
投資有価証券	8,220	8,220
差入保証金	1,313,536	1,321,650
その他	353,890	370,969
貸倒引当金	△21,145	△21,019
投資その他の資産合計	1,654,501	1,679,820
固定資産合計	7,847,171	10,022,299
繰延資産		
社債発行費	26,057	21,391
繰延資産合計	26,057	21,391
資産合計	9,035,174	11,251,527

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年11月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	386,621	463,922
短期借入金	338,900	96,971
1年内返済予定の長期借入金	1,309,837	1,245,450
1年内償還予定の社債	66,000	30,000
未払金	701,952	965,823
未払法人税等	39,379	36,540
賞与引当金	3,192	1,144
株主優待引当金	5,690	12,250
その他	483,888	487,076
流動負債合計	3,335,461	3,339,178
固定負債		
社債	370,000	350,000
長期借入金	2,916,909	4,712,558
資産除去債務	89,091	102,974
その他	487,478	832,650
固定負債合計	3,863,479	5,998,184
負債合計	7,198,940	9,337,362
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,146,969	1,277,482
資本剰余金	1,076,969	1,207,482
利益剰余金	△341,325	△558,225
自己株式	△76,085	△76,085
株主資本合計	1,806,527	1,850,654
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△36,844	△41,134
その他の包括利益累計額合計	△36,844	△41,134
新株予約権	1,638	13,006
非支配株主持分	64,912	91,638
純資産合計	1,836,233	1,914,164
負債純資産合計	9,035,174	11,251,527

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年3月1日 至平成30年11月30日)
売上高	10,614,555	11,023,311
売上原価	3,330,396	3,539,861
売上総利益	7,284,158	7,483,449
販売費及び一般管理費	7,458,249	7,707,249
営業損失(△)	△174,090	△223,800
営業外収益		
受取利息	363	851
協賛金収入	90,452	103,174
設備賃貸料	14,579	14,656
その他	6,763	22,201
営業外収益合計	112,158	140,884
営業外費用		
支払利息	56,641	54,484
為替差損	8,306	2,737
賃貸費用	16,604	13,453
その他	4,848	7,551
営業外費用合計	86,400	78,225
経常損失(△)	△148,333	△161,141
特別利益		
受取保険金	-	40,989
特別利益合計	-	40,989
特別損失		
減損損失	10,377	-
店舗閉鎖損失	77,173	18,268
特別損失合計	87,551	18,268
税金等調整前四半期純損失(△)	△235,884	△138,420
法人税等	△29,127	26,180
四半期純損失(△)	△206,756	△164,601
非支配株主に帰属する四半期純利益	500	27,147
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△207,257	△191,748

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年3月1日 至平成30年11月30日)
四半期純損失(△)	△206,756	△164,601
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	6,610	△4,290
その他の包括利益合計	6,610	△4,290
四半期包括利益	△200,146	△168,891
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△200,146	△195,617
非支配株主に係る四半期包括利益	-	26,726

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第3四半期連結累計期間において、ストック・オプションとしての新株予約権の権利行使により、資本金が130,513千円、資本準備金が130,513千円増加し、当第3四半期連結累計期間末において資本金が1,277,482千円、資本剰余金が1,207,482千円となっております。

(会計上の見積りの変更)

第1四半期連結会計期間において、不動産賃貸借契約に基づく原状回復義務として計上していた資産除去債務について、退店等の新たな情報の入手に伴い、店舗の退去時に必要とされる原状回復費用に関して見積りの変更を行いました。見積りの変更による増加額16,893千円を変更前の資産除去債務残高に加算しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成29年3月1日至平成29年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	飲食	不動産	ブライダル	計				
売上高								
(1) 外部顧客 への売上高	9,559,875	174,346	597,211	10,331,433	283,121	10,614,555	—	10,614,555
(2) セグメント 間の内部 売上高又は 振替高	63,019	1,346,230	564	1,409,814	369,611	1,779,426	△1,779,426	—
計	9,622,894	1,520,576	597,776	11,741,247	652,733	12,393,981	△1,779,426	10,614,555
セグメント利益 又は損失(△)	271,550	126,694	28,924	427,169	27,677	454,847	△628,938	△174,090

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、広告代理業や卸売業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△628,938千円は、セグメント間取引消去及び各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「飲食」セグメントにおいて、株式会社ジェイプロジェクトの不採算店舗に係る構築物及び工具器具備品等について、当該資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては、10,377千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

「飲食」セグメントにおいて、株式会社かわ屋インターナショナルの株式を取得し、同社およびその傘下にある株式会社かわ屋東京を子会社化いたしました。当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間においては、347,602千円であります。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自平成30年3月1日至平成30年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	飲食	不動産	ブライダル	計				
売上高								
(1) 外部顧客 への売上高	10,042,336	200,611	494,009	10,736,957	286,353	11,023,311	—	11,023,311
(2) セグメント 間の内部 売上高又は 振替高	63,998	1,305,494	200	1,369,693	351,997	1,721,691	△1,721,691	—
計	10,106,335	1,506,105	494,209	12,106,650	638,351	12,745,002	△1,721,691	11,023,311
セグメント利益 又は損失(△)	323,069	128,038	△14,105	437,002	24,269	461,271	△685,071	△223,800

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、広告代理業や卸売業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△685,071千円は、セグメント間取引消去及び各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「不動産」セグメントにおいて、株式会社ジェイアセット(旧商号株式会社サンコーエステート)の株式を取得し、子会社化したことによるのれんの暫定的な増加額は、当第3四半期連結累計期間においては、438,312千円であります。